

人生を楽しくする話の種（笑う門には福来たる）

吉村幸博

皆さん“転ばない、風邪をひかない、義理を欠かない”が長生きの秘訣だそうですが、やっぱり笑いが一番です。人生を楽しくする話の種をご紹介します。

- ①「夏の蛤」夏は暑いので身は腐るが貝は腐らない。「見くさって買いくさらん」品物を見るだけで、一向に買ってくれない人のこと。
(因みにハマグリは浜で採れて栗の実に似ているので”浜の栗”から転化した。)
- ②「春の夕暮れ」春の日は長く、暮れそうでもなかなか暮れない。何かくれそうでくれない。「ケチな人」や、見積りを取るだけで契約しない会社を指す。
- ③「夏の火鉢」誰も手を出さない。買い手・貰い手がない。
- ④「芝居の植木」根がない。根拠のない話し。
- ⑤「黒犬のしっぽ」尾も白くない「面白くない」
- ⑥「うどん屋の釜」湯ばかり「言うばかり・口先だけの人」
- ⑦「沢庵の切り身」弁当やどんぶり物に付いてる沢庵の切り身は必ず二切れとなっている。昔、罪人の首を斬る日の朝食に付いている沢庵の切り身は、人を斬る役人は一切れ(人斬り)斬られる罪人は三切れ(身斬れ)であったことから、普通の人の沢庵は二切れになったそうだ。
- ⑧「オジャン」250年前の江戸時代に使われた。オジャンになった-オジャンにした等「終わり」を意味する。当時、火事が発生すると半鐘の音を「ジャン、ジャン、ジャン」と叩く数によって火事が近いか遠いかを判断した。
火事が終わると「ジャン」と一回だけ叩くので使うようになった。
- ⑨「ケリをつける」「ケリがついた」交渉や話し合いを終わらせる時に使われる。今から200年前、小倉百人一首(カルタ)が盛んになった。
百人一首には、最後に「けり」のつく歌が8つあり一番多い事から使われるようになった。
 - ・川に 風のかけたる しがらみは ながれもおえぬ もみじなりけり
 - ・あいみての のちの心に くらぶれば 昔はものを 思はざりけり
 - ・ももしきや 古き軒端の しのぶにも なおあまりある 昔なりけり

皆さん、如何でしたか？雑学でコミュニケーションを楽しんで下さい。
笑う門には福来たる。
笑いが元気の源です。人生において元気が何よりです。

